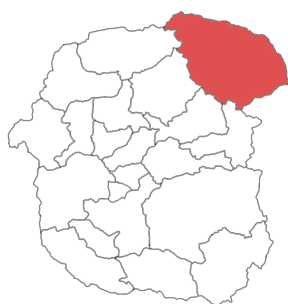




7区 | 大倉 行政区

地理



飯舘村の北東部に位置し、東側を南相馬市鹿島と接する。地名の大倉は急峻な崖山を意味し、山々に囲まれた谷あいの地形を形成している。県道268号線の北側に位置する標高455mの葉山は、近隣の堂六神山と同様に石灰岩質の地質であり、山頂には神社が建てられている。東端には地区の中央を流れる真野川を堰き止めて建設された真野ダム（はやま湖）があり、治水・利水の要であるだけでなく、季節ごとの景観を作り出している。

文化・生活

大倉行政区では、古くから山津見神社と福善寺を中心とした信仰生活が営まれてきた。かつて4月19日に行われた春祭りであるお浜下りは、地区の一大行事であった。神輿の担ぎ手たちは、大倉から南相馬市鹿島の右田浜、そして原町の初発神社を目指して徒歩で練り歩いた。道中では、神輿のお囃子を鳴らしながらお札を売り歩き、その売上を旅費や旅館代に充てるのが通例であった。お札には、紙札、金紙のついた帯札、板札などの種類があったという。時代が下ると移動手段は軽トラへと変化した。現在では鹿島の中だけを歩く形式となり、さらには担ぎ手不足の影響で、神社に宮司を招いて拝んでもらうのみの形式へと縮小されている。

また、11月の第3週には福善寺の庭で火祭りが行われていた。男性たちが火渡りを行う勇壮な行事で、かつては田植え踊りや宝財



佐藤春雄 行政区長

東京や長野の建設会社に勤めた後に白石行政区の飯舘村森林組合に勤めていた。副区長を4年勤め、そのまま行政区長になり2025年時点で2年目。

行政区長の思い：

本当に人と人との助け合い。助け合わなければ生きていけない。もうこの地区を出ていった人にまで声をかけて(草刈りをするなど)繋がりを保つことが必要。

踊りも奉納され、子供たちが学校を休んで参加することが許されるほどの地域を挙げたイベントであった。福善寺は現在、茨城県東海村在住の住職によって管理されており、原町や霊山、玉野方面まで約120戸の檀家を持っている。

平成元年、真野ダムの湛水が始まると、地区の様相は大きく変化した。水没地域の住民は、相馬市への集団移転のほか、南相馬市の原町や鹿島、新地町などへ分散して移り住むこととなった。

ダム建設以前から漁業組合が存在しており、かつてはフナ釣りが親しまれていたが、ダム湖となってからはブラックバス釣りが主流となり、フナの姿は見られなくなった。

現在、7月の終わり頃にははやま湖まつりが開催されており、震災後の直近4年ほどは花火の打ち上げも行われるなど、新たな湖畔の文化が育まれている。

震災前、この地域では主に食用米の栽培が行われていたが、現在は営農形態が大きく変わっている。農地は大倉出身の村議会議員が借り上げて管理を行っており、作物は牧草と飼料米へと転換された。住民の生活スタイルも変化し、現在は避難先などから村に通い、草刈りなどの維持管理をして帰宅する世帯が多い。草刈りは週単位で賃金が支払われる仕組みで、高齢者も積極的に参加している。ま

た、春と秋には牧草地の共同草刈りが実施され、朝の2時間ほどをかけて共同作業を行っている。

集落は、川沿いの平地や山裾を利用して形成されており、小瀧、湯舟、松ヶ平、中島、宮前の5つの地区(班)から構成されている。現在の集会所は、既存施設を活用して2019年に整備された。しかし、家屋が広範囲に点在している地理的特性から、有事の際の安否確認や対応に不安が残るという課題も抱えている。

かつて開催されていた村民大会(マラソンや運動会)は、現在、行政区ごとのパークゴルフ等の大会へと移行した。地区内では週に2回、4~5人が集まってゴルフを楽しむなど、小規模ながら住民同士の交流が続いている。他地区との交流については、必要性は認識されつつも実施には至っていない。年に2回開催されるグラウンドゴルフ大会は、地区の予算で運営される重要な懇親の場である。秋祭りでは、伝統的な食文化が顔を覗かせる。地元の川で獲った生のモクズガニをバケツに入れて潰し、団子状にして食べる料理が振る舞われるが、その味付けには地区内でも「上地区は味噌味」「下地区は醤油味」という明確な違いがあり、それぞれの家庭や集落の味が継承されている。

店 事業所

昔は雑貨屋が5軒あり、衣類店も1軒あった。魚屋が2軒あったがダム建設でなくなった。普段の買い物に関しては、買い物に連れて行ってもらったり、生協を利用したりしている人がいる。

コラム

【熊笹の花】

120年に一度しか咲かない熊笹の花が2024年に咲いたらしい。竹は一度花が咲くとその後竹林全体が枯れてしまう（正確には地上部が枯れ、地下茎は生きている）。そんな一生に一度見られたら運が良いと言われる熊笹の花、見かけた村民も多いのではないだろうか。



▲ 福善寺

▼ 大倉の山津見神社



人口

41人

最新（2020年）

1983年 222人

1998年 184人

2011年 133人



▲ 四季の移ろいを見せるはやま湖の春。後ろに見えるのは湖の中央にかかる大倉大橋。

▼ はやま湖の夏（左）、秋（右）。大倉行政区の見出し写真は冬



▼ ダム湖の底に沈んだ大倉の村落（飯館村提供、昭和 53 年）



▼ ダム建設に際して建てられた、故郷への思いが彫られた石碑

